

『反骨のコツ』

團藤重光, 伊東乾 編 朝日新書 777円(税込)

反骨精神を持たねばならぬ! 法律学を通じて人生を見直す一冊

会員 伊藤 献 (59期)



團藤 重光。言わずと知れた日本刑法の重鎮である。本書は、社団法人学士会のホームページ (<http://www.gakushikai.or.jp/>) 上で会員向けに連載されている「團藤ブログ『君は團藤重光を見たか?』」における対談を編集し直した書籍である。

対談の聞き手は、人と音楽の関係について脳認知科学の観点からアプローチし、演奏、作曲、音楽指揮を行なっている異色の音楽家である伊東乾氏。いわゆる法律の専門家ではない聞き手からの、時には音楽的、時には文学的観点から発せられる問いに対し、團藤先生は穏和に、しかし生き生きとした口調で語り出す。

対談内容は多岐にわたるが、その中でも戦前の混乱期における美濃部達吉、牧野英一ら先人達から受けた講義について回想する言葉の数々は、実際にその場にいた先生ならではの臨場感あふれるものであり、目の前にその情景を思い描かずにはいられない。

また、本書では、死刑制度や裁判員制度について團藤先生の立場からの主張がなされており、これについても興味深く読み進めることができる。しかし、この本の最大の魅力は、その團藤法学の精神が如何にして出来上がってきたか、團藤先生が自らの幼少時代から学生時代にかけて、何を感じ、悩み、どうやって自分を作り出してきたかを語っている点にある。

「反骨精神はなきやだめですよ」と先生は語る。

私自身、本書を読むまで、自分に反骨精神があると思ったことは一度もなかった。それどころか、反骨精神とやりに魅力を感じることをすらなかった。しかし、そんな私ですら、反骨精神あふれる先生の言葉を追っていくうちに、最後には、反骨精神を持たねばならぬ!と興奮している自分に気付いたほどである。

本書は、法律学を通じて人生について見直すことができる珠玉の一冊である。

* 「最近,おもしろかった本」と「心に残る映画」は隔月交代で掲載します。